

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500038		
法人名	有限会社 ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム 恵寿		
所在地	岐阜県中津川市中津川950-25		
自己評価作成日	平成22年6月22日	評価結果市町村受理日	平成22年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191500038&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」が送れるよう理念を掲げ、法人独自の研修プログラムを作成し、個人個人に合わせた研修を取り組んでいる。又、プログラムについても定期的に見直しを行い、質の向上を目指しています。地域行事にも積極的に参加し、夏祭りや防災訓練等地域と一体となって取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

恵那山を身近に、郊外ではあるが市街を眼下に見渡せる自然豊かな環境にホームはある。開設から2年余りではあるが、ホームの前向きな努力の結果、合同防災訓練や地域の行事に参加して、地域住民と良好な関係が築かれており、地域の一人として受け入れられている。母体法人は認知症を深く理解し、専門性を追求した運営をしている。「尊厳のあるその人らしい生活が送れること」を理念に掲げ、実現に向けて研修や教育に取り組み、納得のいく実践に活かしている。手すりもそれとは感じさせないように縦型で壁に馴染んで一体化しており、至る処で工夫がしてある建築構造と、自然環境の中で、利用者は穏やかな生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」が送れるよう理念を掲げ目指している。	理念は、「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活が送れる」を掲げている。理念は、毎日のミーティングで確認し、全職員で共有している。また、その土地の地域性を活かし、一人ひとりの思いを尊重しながら、穏やかな生活が送れるように実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加や、合同での防災訓練を行う等、地域と一体となって取り組んでいます。今後とも、地域とのつながりを増やしていける様、努めていきます。	地域行事への参加や、ホームのイベントにも住民を招待し、交流している。近所の人々とは、日々挨拶を交わし、野菜や手づくりの菓子を持って訪れている。防災訓練では、地域住民と共に炊き出しを行うなど、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する講演会を取り組み、地域の方に認知症の理解を深めていただける機会を作っている。自治会長とも連絡を密にし、地域行事に積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方には推進会議の中で、日々の生活の様子、行事予定、反省点など伝えている。地域の方の意見や要望を取り入れながら、改善、質の向上を目指しています。	会議は、2ヶ月に1回、ホームで開催している。家族・行政・自治会長・区長が参加し、防災訓練や夏まつり等について意見や要望が出され、運営に活かされている。また、会議目的の一つとして、ホームのよき理解者、協力者の関係を築いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市担当者とは連絡を取り、事業報告及び、市の意向等を確認しながら取り組んでいる。介護相談員の訪問があり、意見を頂く機会がある。	2ヶ月に1回、市主催の業界全体会議に出席している。また、複数運営している事業者部会もあり、情報を得たり、他のホームの実情を学んだり、情報交換している。市の介護相談員を受け入れ、活動を通じてホームに対する意見を聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないが、具体的な行為に関してスタッフ全員が理解するには至っていない。身体拘束をしないケアの継続と、身体拘束廃止の重要性を理解してもらえるよう、研修を行っていききたい。	身体拘束について、全職員に周知・徹底するには、まだ課題が残っている。内部研修や学習会で取り上げて、職員の理解を深めるように、年次計画に組み込んでいる。	職員は、身体拘束禁止の意義を学び、具体的な行為と弊害を理解し、拘束しないケアの継続に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での研修に取り組んでいるが、高齢者虐待防止関連法の周知までには至っていない。今後外部での研修に積極的に参加し、参加者が他スタッフへの周知活動を行えるような取り組みをしたい。		

岐阜県 グループホーム 恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域権利擁護事業についての研修機会が作られていないため、全スタッフの周知には至っていない。今後外部での研修を積極的に参加し、参加者が他スタッフへの周知活動を行えるような取り組みをしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、契約内容、制度の説明を行い、理解・納得していただける働きを行っている。契約後も定期的に連絡を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の希望をケアプランに反映させ、利用者、家族、スタッフが周知し、ケアに反映できるよう取り組んでいる。	家族の面会時や利用者のケアの中で、意向や要望を受け止めている。利用者の生活歴や社会的地位の思いにつながるよう、地域参加の要望が出ている。家族と協力し、各種の会合に出席するなど、関係が途切れないように支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員には責任をもって業務をもってもらい、そこから各個人の意見を管理者が把握できる時間を設けている。又定期的に面談を行い、意見提案をできる時間を設けている。	法人代表と職員との定期会議や、個人面談でも意見を述べる機会を設けている。職員からは、困難な業務事例や人間関係をよくするための意見がある。代表者・管理者がそれぞれの権限の中で、改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが働きやすい環境であるよう、定期的に面談を取り組みスタッフの意見を聴き、修繕等に反映できるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自の研修プログラムを作成し、個人個人に合わせた研修に取り組んでいる。又、プログラムについても定期的に見直しを行い、質の向上を目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内独自で同業者と行う会議(複数事業所連携事業検討会)を定期的に行ない、意見交流に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談時は必ず本人の面談を行い、ご本人様の気持ちや、要望の聞き取りを行っている。職員もご本人との関係づくりを積極的に行ない、ご本人が話しやすい雰囲気を作り、不安を受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報は細かな部分も聞き取り、受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、問題点を見極め、担当のケアマネージャーと連携をとりながら、他のサービス利用の可能性については情報交換を行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間で時間を共に過ごす中で、お年寄りから学ぶこと、一緒に楽しむことで、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などの段取りも早めに行ない、スタッフと共に利用者様を支えていただける関係作りを心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方が利用してきた病院や美容院、友人等の面会の調整も行なっています。	馴染みの人との関係を大切にし、入居前の自治会の総会や同窓会等に参加してもらっている。馴染みの美容院の利用、墓参りや友人に会う等の要望があれば、調整し、家族の協力も得て、支援している。家族の面会時に散髪をしたり、一緒に楽しんでもらい、継続するように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の中核症状を見極め、利用者様同士でも、スタッフが関係作りのかけ橋となり、積極的に交流して頂ける働きかけをしています。また、利用者様同士が支え合う場面を作れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後については、利用者様の状況に合わせてご家族と連携を取るよう心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の生活歴を把握し、ご本人の希望や意向も組みとれるよう努力している。	センター方式を活用し、把握した利用者・家族の思いや意向、生活歴等を個人記録に移し、職員で共有している。担当制により、よりきめ細やかに把握して、ケアに反映している。将棋等同じ趣味を行うことにより、共通の話題も増えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族からの情報も含め、ご本人の生活歴や環境の情報収集に努めている。入居後もご本人、ご家族からの情報を随時把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自分のペースで過ごしていただき、日々変化する利用者様の状態に応じて、対応するよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ご本人が不安に思っている事や、表情や言動で原因把握に努め、意見やアイデアを出し合いながら介護計画を作成している。	利用者の状態や表情・言動をくみ取り、思いを把握している。不安のない、よりよい生活ができるように、家族や利用者とは十分話し合いを設けて、個々の望むような介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子、ケアの実践・結果、特変等個別に記入し、情報の共有を行っている。又、個人カルテを作成し、スタッフが利用者様の情報を把握しやすいような取り組みも行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所より、当施設への転居の際、ご本人の状況やご家族の思いをくみとって、タイミングを見ながらスムーズに行えることができ、ご本人にとってもダメージを最小限に抑えることが出来たと思われる。		

岐阜県 グループホーム 恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアにも定期的に入っていたり、民生委員を通して、地域のお年寄りとの交流が持ていただけるような取り組みをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院の先生にも、当施設のご利用者様の状態を把握して頂き、通院にもスタッフが付き添っている。	本人・家族の同意で、協力医を「かかりつけ医」としている。利用者の状態により随時、往診の体制である。職員は、どの医療機関にも受診に同行し、利用者の状態を伝えている。また、歯科の往診体制もあり、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に4日看護師が勤務し、利用者様の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご本人の現状と今後の予測できる状態について、看護師やかかりつけ医と相談をし、早期退院に向けてできる限り連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で対応できることについても、かかりつけ医にも理解してもらい、状態の変化によっては他の機関とも連携が取れるような働きかけに努めている。	終末期や重度化した場合の対応を、ケースに応じて本人・家族等と十分に話し合う機会を設けている。寝たきりや終末期の状態になっても、かかりつけ医と相談しながら、事業所ができる支援を検討し、対応する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在訓練時等しか取り組めていない状況である。定期的な訓練、研修を取り組み外部への研修にも取り組んでいき、事故発生時に備えていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との合同の訓練、施設独自の訓練を行い、夜間を想定しての訓練を実施している。災害発生時の対応は今後も強化し、スタッフの災害に対する意識強化を目指したい。	地域と合同で、防災訓練を年2回行っている。さらに、1回は、夜間を想定した自主訓練を実施している。地域の防災意識は高く、近隣の応援協力体制はできている。また、事業所を、避難場所として地域に開放している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関わるもの(記録・データ等)については扱い方のルールを徹底し、スタッフに周知してもらうよう努めている。	利用者の尊厳を守るために、誇りやプライバシーを損ねない対応を行うよう配慮している。新しい職員にも重要事項として指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の力に合わせた働きかけをし、出来る限り自己決定をしていただける様心がけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事務所でのタイムスケジュールは、スタッフの業務スケジュール以外は作成せず、一日一日で利用者に合わせたケアにあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には昔から馴染みのある美容院等に行けるように段取りを行っています。他の利用者の中にはご家族に連絡を取って、散髪していただく方も見えます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビング内にキッチンを設け、全て利用者様の目の前で作ります。利用者様の状態を把握し、できることを負担のないように一緒に取り組んでいます。季節の料理や、馴染みのある食べ物も提供しています。	利用者の嗜好を取り入れながら、季節の食材で、馴染みの食べ物を調理している。職員も一緒に食べることで利用者の食欲につなげている。利用者は出来る範囲で、食材の準備、片付け等を手伝っている。午後のおやつづくりも、職員と一緒に楽しみながら作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量を把握し、食事の形状や盛り付けを工夫し、美味しく食べられるよう支援している。スタッフがメニューの作成を行い、臨機応変に変更も可能である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人の力に応じた口腔ケアを徹底し取り組んでいます。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄時のサインを見極め、一人一人の排泄パターンや習慣を活かして、苦しい思いや辛い思いをしないように支援している。	利用者の表情や動作から排泄パターンを把握し、プライバシーを尊重しながら支援している。リハビリパンツから布パンツに切り替えたことで、失敗がなくなり、排泄の自立ができ、笑顔が戻った利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を積極的に支援し、食べ物についても工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に沿った入浴を心掛け、入浴が嫌いな方でも、本人の意思を尊重し、ご自分の意思で入浴して頂けるように工夫しています。	季節のゆず湯・ハーブ湯などを利用し、週に2～3回、利用者の希望に合わせて支援している。入浴拒否の強い人も、会話や興味のあること、介護者を交代する等の工夫を重ね、抵抗なく入浴を楽しむようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間だけの睡眠時間を見るのではなく、昼間を通してご本人のペースにあった睡眠時間が取れているのか確認しながら支援をします。睡眠場所についても、その都度ご本人様の要望を確認し支援します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更時には、連絡ノートに記載する等スタッフ全員が服薬内容を確認する様に務めています。配薬確認一覧表を作成し、配薬ミス、誤薬がない様に徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人の生活歴や趣味を把握し、生活の中で出来ることを役割分担し、自信につながるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中で、近所へ散歩へ行ったり、近くのお宮参りに行ったり一緒に買い物に出掛けたり楽しみをもってもらっている。	近くの神社までのコースを、毎日散歩している。重度化で歩行に支障のある人は、ホームの外周をゆっくり歩いたり、庭の東屋を利用して茶会や外気浴をしている。普段行けない所へは、年間を通じ、まとまって出かけるように支援している。	

岐阜県 グループホーム 恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の力に応じ、外出時に希望があればご自分のお金を使って、買い物をする您也可以。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やハガキのやり取りができるように支援しています。現在本人の希望がある場合は電話でのやり取りを行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や行事を取り入れ、見当識の障害がある利用者にも楽しく季節を感じていただける工夫に努めています。空間についても利用者様の状況に合わせ生活用品の配置を変える工夫もしている。	台所や浴室を中心とした回廊になり、天井は高く、大きな窓からは四季の移ろいが自然と視覚に飛び込んでくる。手すりもそれとは感じさせないように縦型で壁に馴染んで一体化しており、工夫されたとても居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間ではあるが、一人一人が安心できる場所や、一人になれる居場所の工夫を取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた物を持ち込んでいただき、必要な物が出て来た時は、随時ご家族と連絡を取り合って、居心地の良い部屋作りにも努めています。	居室には、見やすい墨字で書かれた木製の表札が目線に掲げられている。使い慣れた小物や孫の写真、絵手紙、手製の敷物など馴染みのものがある。大切にしていた収納家具を持ち込み、整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	単純に張り紙をするのではなく、利用者様のどの部分が、障害を受けているのかを見極め、その方にあつた対応を心掛けている。		